

# 第三者評価結果

## ①第三者評価機関名

(有) エイ・ワイ・エイ研究所

## ②施設・事業所情報

名称：特別養護老人ホーム 福寿園	種別：介護老人福祉施設
代表者氏名：理事長 南 芳則	定員（利用人数）： 100名
所在地：石川県白山市山島台4丁目100番地	
TEL：076-276-3545	ホームページ：http://www.fukujiyukai.jp/yama_home/

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日 1983年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名等） 社会福祉法人 福寿会				
職員数	常勤職員	55 名	非常勤職員：	31 名
専門職員	生活相談員	2 名	介護専門員	17 名
	介護専門員	42 名	看護職員	0 名
	看護職員	7 名	作業療法士	1 名
	管理栄養士	1 名	その他	13 名
	その他	3 名		
施設・設備の概要	(居室数) 100床 (ショートステイ4床)	(設備等)	全体に眠りスキャン（リアルタイムモニター機能）の設置（呼吸、心拍数、睡眠等）	

## ③理念・基本方針

<p>&lt;福寿会理念&gt;【福祉の心を社会のために】</p> <p>私たちは施設を利用される方の個人の尊厳を保持し、日々充実した生活を送られるよう支援します。</p> <p>&lt;基本方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・法人理念のもと、ケアの質、暮らしの質を保障した専門性の高いサービスの提供</li><li>・地域ニーズに適應した在宅介護サービスの提供</li><li>・公益法人の使命に合わせて、地域との共生をはじめとする地域活動、地域貢献活動に努める</li></ul>
--

## ④施設・事業所の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"><li>・ユニットケアにおける個別ケアの充実と、介護の専門職として根拠に基づいた自立支援介護を各専門委員会活動を通して共有理解し、実践への取り組み</li><li>・新たに魅力アップ委員会、生産性向上プロジェクトチーム、意思決定支援チームを立ち上げ、魅力アップに繋げている。</li><li>・生産性の意識、ACPの実施へと拡がる活動力に繋げている。</li></ul>
---

## ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年1月30日（契約日）～ 5年5月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	5回（令和元年度）

## ⑥総評

### ◇特に評価の高い点

■サービスの質を担保するために人材育成・業務のIT化（省力化、情報共有）により生産性の向上に取り組んでいる。人材育成のために多様な専門委員会活動の体制を構築し、職員の自主性重視し、サービスの質の向上のために職員にとっても魅力ある職場作りに取り組んでいる。

■人材の確保・育成・定着に関する方針を、中・長期計画に明示しており、階層別に期待する職員像を示している。人材育成のために人事考課制度を導入し、目標管理に基づく面接を実施している。人事考課の結果は職員にフィードバックし、職員のモチベーションの維持向上を図っている。

■地域の福祉ニーズの把握のために公民館での福祉講座に出向き、コロナ過での対応などの講和を実施しており、地域住民の気軽な介護相談に応じる体制を整備している。施設が有する自立支援介護・認知症ケアのノウハウを利用者家族・地域住民に還元できるように、「認知症あんしん塾」を実施している。「認知症あんしん塾」は全国大会での発表もでき、地域の在宅介護への貢献活動に取り組んでいる。

■年1回、利用者アンケート（意向調査：ヒアリング形式）を行い、満足度の把握・分析を行って職員と情報共有している。また家族に対しての満足度アンケートの実施と、家族会役員会で家族の意見・ニーズの把握に取り組んでいる。アンケート結果は内容を検討して施設の対応をフィードバックしている。

■3ヶ月毎に排泄状態に関するスクーリングを実施して支援計画書を作成している。また毎月の職員間での検討（排泄委員会、自立支援ミーティング）や施設内勉強会を重ね、排泄ケアの向上を図っている。4つのケア（水分、下剤中止、歩行訓練、トイレでの排泄）、その中の下剤に頼らない自然排便について便秘を治す7つのケア（規則正しい生活、常食、食物繊維、水分、運動、定時の排便、座位排便）に継続的に取り組んでいる。身体に無理なく立位を補助するロボットや踏ん張りができる器具についても身体に合わせて使用している。

■利用者個々の嚥下能力・栄養面に配慮した食事（ソフト食、プロテインの活用等）を提供している。胃ろうの方への経口摂取・常食化に向け、栄養改善委員会での検討やミールラウンドを実施している。「KTバランスチャート評価」に基づき多職種協働で取り組んだ事例を全国大会の研究会議で発表し、奨励賞を受賞している。利用者のスピードに合わせて職員は時間かけて食事介助している。

#### ◇改善を求められる点

■ 法人の中長期計画及び単年度計画を踏まえて、部門ごとの事業計画を策定されているが、部門の計画は1年間で計画を達成する事を目指すものである。よってより具体的な内容にされることを期待する。

■ 苦情内容・改善策は家族の同意を得て、玄関に掲示・公表している。職員には全体会議（年2回）の場で、苦情内容・考察・改善策等を周知している。今後、苦情の内容・改善策をホームページ・広報誌等でも公表する取り組みが期待される。

■ 年2回の火災想定総合避難訓練、年1回の地震・水害を想定した対応訓練を実施している。また2ヶ月毎に通報訓練を実施している。利用者の安否確認（点呼）や勤務外職員の安否確認（ネットサービス活用）方法を取り決めている。水災対策について課題を認識しており今後の対応策検討に期待する。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

令和2年度受審の際、ご指摘を頂いた項目への改善に向けて取り組んでまいりました。事業計画の周知では利用者様にわかりやすいようにチラシと説明に工夫を凝らし、管理者の役割、責任の表明、理解については、権限移譲についての文書化や組織表に明確化と改善を行いました。

コロナ禍の中で正直、いろんな意味で苦しい状況化ではありましたが、利用者様本位のサービス、人材育成、生産性向上への取り組みの継続と地域の福祉ニーズに応じるべく「認知症あんしん塾」の開催を評価して頂き、今後も一層、地域に還元、貢献してまいりたい所存です。

#### ⑧評価細目の第三者評価結果（別添）